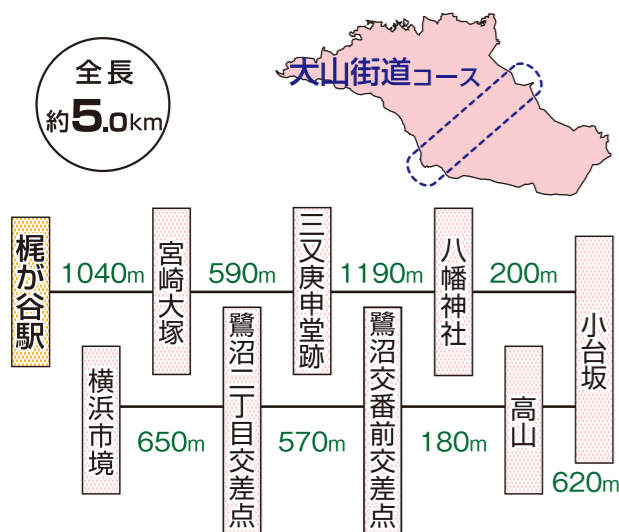


大山街道

—多摩丘陵の難所を越えて—



インフォメーション: [梶が谷駅] へのアクセス

(電車) 東急田園都市線・各駅停車をご利用ください。

大山街道について

矢倉沢往還の大山街道は、江戸の赤坂御門から大山を結ぶ信仰の道である。途中、二子・溝口、荏田、長津田、厚木などに宿場を設け旅の便を図ったが、多摩丘陵にはねもじり坂、八幡坂、小台坂、うとう坂などの急坂があり難儀した。大山は、天平勝宝7年(755)に東大寺の別当良弁が創建した。山頂に阿夫利神社を建て、その中腹に大山寺を開く神仏習合の姿をしていた。鎌倉時代の史書「吾妻鏡」によれば、建久3年(1192)、源頼朝が大山に参拝して小太刀を納め、これが「太刀納め」の起源になったと言う。慶長10年(1605)、徳川家康は大山の改革に着手し、修験者を武装解除し、御師として大山の布教に従わせた。これが大山講の始まりで、関東地方周辺からの大山詣でが始まった。大山には雨乞・豊作・豊漁・商売繁盛などを祈願した。



大山をのぞむ

ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)



① 宮崎大塚
6世紀に築造された方墳と言うが、未調査のため詳細は不明。王禅寺道の起点になっている。塚が作られた目的には、武器の隠し場所、物見塚、鎌倉道の一里塚説などがある。

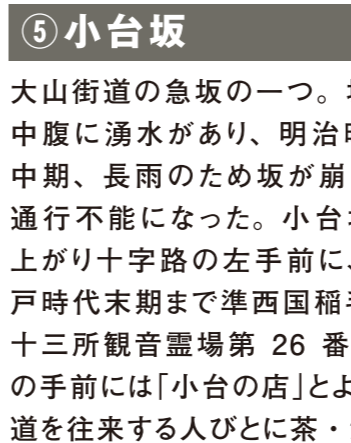


② 三又集落と庚申堂跡
昭和16年(1941)、陸軍東部62部隊の接收に伴い32軒の農家と庚申堂は移転した。三又は明治時代中期頃から「馬絹の枝物」で有名な花作りの中心地になった。大正時代から「むろ」を使い、ウメ・サクラ・モモなど早咲きの花木を育て始めた。花や萼(がく)の発色法は市場で高い評価を得た。大山街道が盛んに使われていた時代には、庚申堂に2基の庚申塔があった。三又集落は相模川のアユを夜通し走り江戸まで運ぶ「鮎担ぎ人足」の休憩地になっていた。草鞋(わらじ)を履き替え、溝口の亀屋を目指した。

③ 土橋の八幡坂
坂の名称は八幡神社から付けられた。大山街道の坂は、現在の坂より約40m西側にあった。坂の両側は切通状の土手が続き、樹木が鬱蒼と茂り、土手の下側から湧水があり通行に大変難儀した。荷車で坂を上る際は後押しが必要であり、下りは輪止を行った。



④ 八幡神社
旧石段は、土橋村と馬絹村の境界で片大門とよばれた。隣接して小台稲荷神社が建つ。石段下の庚申塔は、正徳4年(1714)銘がある。以前、大山街道はこの前を通過していた。



⑤ 小台坂
大山街道の急坂の一つ。坂の中腹に湧水があり、明治時代中期、長雨のため坂が崩壊し通行不能になった。小台坂を上がり十字路の左手前に、江戸時代末期まで準西国稲毛三十三所観音霊場第26番札所があった。この観音堂の手前には「小台の店」とよばれる「下の店」があり、街道を往来する人びとに茶・酒・草鞋などを売っていた。

⑥ 高山
馬絹の最高地点であり、国土地理院が設置した標高74.6mの四等三角点が立てられていた。好展望地であり、昭和20年代頃まで、晴天には多摩川を上る舟の白帆や、品川の海を眺望できたと言う。

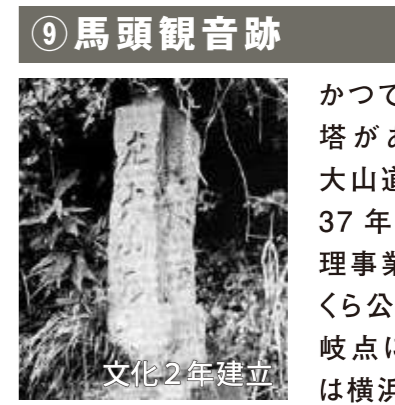
参考文献
『新編武蔵風土記稿』 平成4年 歴史図書社
『川崎地名辞典基礎原稿』 平成8年 川崎地名研究所蔵
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会



⑦ 有馬の八幡坂
名称は中腹にあった八幡祠から付けられた。伯楽は馬の名医で厚木・八王子からも馬の患者が訪れた。天保2年(1831)、渡辺華山は江戸から大山街道を歩き小園村(綾瀬市)の「お銀様」を訪問した。その際、出店に立寄り荏田宿までの道程を尋ね、有馬の風景をスケッチして「游相日記」に記している。大山の夏祭の期間、大山街道で近在農家が駄菓子・煎餅・クリなどを販売した。



⑧ 阿弥陀堂(祠)
宝永元年(1704)銘の地藏尊と元禄元年(1688)銘の阿弥陀如来像がある。貞享時代、疫病が流行し多くの子供が亡くなった。その供養と平癒を願い、子を亡くした屋号「植村」の妻が中心に建立。



⑨ 馬頭観音跡
かつて道標を兼ねた馬頭観音塔があり、「右王禅寺道」「左大山道」と記されていた。昭和37年から始まった土地区画整理事業以前は、現在の有馬さくら公園角の王禅寺道との分岐点に立てられていた。現在は横浜市内に移設されている。

⑩ 峯道
川崎・横浜市境を通る尾根道。品川・羽田方面の御嶽講信者は、中原街道にある野川の山崎から南の横大道に入り峯道を通り、菅生・高石・細山・府中を経て奥多摩の御嶽山に向っていた。

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著
『小学校社会科副読本 記念誌』 川崎市立小学校

歴史ガイドまち歩き⑧ 大山街道



地図の見かた

- ③ 散策コースとポイント
- 幹線道路
- - - 古道
- - - 旧村界
- - - 旧大字界
- 有馬村 旧村名
- 大谷 旧大字名
- 太田前 旧字名
- 見どころ
- 矢上川 河川名
- ♀ バス停
- WC トイレ

谷戸・谷(ヤト)の豆知識

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。